

2018年度 連続公開講座(全3回)

『西周時代の金文(銘文)を読む——歴史の現実を知る』

今回は西周時代の金文(銘文)を実際に書きながら具体的に読んでいきます。
金文は甲骨文をそのまま継承したものであり、文字の成り立ちを考える時の重要な資料になります。
また、甲骨文には使われなかった文字も多数あります。

西周王朝が殷王朝を滅ぼした出来事は殷周革命と呼ばれており、「革命」という言葉の元になりました。
公式的な歴史とは違った意外な現実の側面を、西周時代の前期・中期・後期それぞれの銘文を通して、読み取っていきましょう。

【第1回】 2018年11月24日(土) 14:00~16:00
西周時代前期の金文を読む——般から周への激動期。領土の拡大と「天の思想」。

【第2回】 2018年12月22日(土) 14:00~16:00
西周時代中期の金文を読む——国境の防衛。任官式と王朝の再建。

【第3回】 2019年1月19日(土) 14:00~16:00
西周時代後期の金文を読む——土地争い。異民族との熾烈な戦い。王朝の行方。



【講師】 高島 敏夫(立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所・客員研究員)

【会場】 立命館大学 衣笠キャンパス 創思館カンファレンスルーム

【日時】

第1回 2018年11月24日(土) 14:00~16:00
第2回 2018年12月22日(土) 14:00~16:00
第3回 2019年1月19日(土) 14:00~16:00

【備考】

レジュメ(※)を配布いたします。

金文を描くための筆記用具(ノート、ペン)を各自ご用意ください。

※『金文の世界』所収の金文を主とした資料。

【問合せ】

立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所事務局

TEL:075-465-8225 FAX:075-465-8245 E-MAIL:ro-toyo@st.ritsume.ac.jp

参加費無料
事前申込不要

立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所